

SUMMARY

No050820

*日本のカレンダーに合わせて1月~6月と7月~12月に分けたり、あるいは、1~3月、4月~6月、7月~9月、10月~12月というようにクォーター(四半期)に分けることもできます。カレンダーを紹介したのは、今年3月に大きなRSC(リバース・ストラクチャル・チェンジ)が発生したので区切りとしては悪くないと思ったからです。3月のRSCのアフターショックはまだ続いており数値構造の歪みはなお解消されていませんが皆さんがより強い意欲を持って取り組むためにはこのように心理的な意味での区切りはいい考えだと思います。皆さんはこれからより本格的な("full-fledged") Number Operation を習得することになります。

*今週は5/6まで休みでしたのでno050720のレポートのみです。今年後半に向けて大事なポイントをまとめました。

※ 3月~今年の第2期
と読んで心機一転
より本格的なNumber
Operationの習得
めざしていきましょう。

Calendar For Number Operation

私(私のチーム)は1年を2期に分けています。第1期は11月第1週(日本のカレンダーに合わせて「文化の日」の祝日の翌営業日~翌年5月第1週、第2期は5月第2週(日本のカレンダーに合わせてとゴールデンウィーク明けあたり)から同年10月末まで。Number Operationをアメリカでスタートした時からそのようなカレンダーの分け方をしています。

Nature of Number Never Changes

政治・経済の状況や社会情勢に大きな変化があっても自然科学の法則は変化しません。

これまでの日常とは違う環境が私たちを取り巻いていますが、Number Operationに関しては、これまで同様に数字に集中してください。数値/価値やそれらの変化の性質、数学的原理は全く変わりません。昨年(2019年)11月から今年(2020年)5月5日までの数値の変化を振り返ってみてください。3/16にF1の数値は70ポイント超えました。凄まじいRSC("Reverse Structural Change")でした。さらに、その後の変化の軌跡を辿ってみてください。数値の性質は何も変わっていません。5/5現在なおマトリックスにはなお歪みが見られます。数値構造は正常な形状に戻っていません。しかし、大きな歪みはかなり解消されました。構造の内部では歪みを解消しようとする力が常に働いています。私たちの扱っている数値の正体は数学的な概念であって経済的な原理で決まる「価格」ではありません。...このことを片時も忘れないことです。

誰にも不可能
では数学を教える
合理的にやる
には
徹し
ます。

→ 自然科学(数学や物理学等)は
社会科学(経済学、政治学、社会学、史学等)
といふ価値観(思想の基準)が異なる可。